

見なおそう!

みんなの健康

日本赤十字社和歌山医療センター
http://www.2.kankyo.ne.jp/nisseki-w/

No.19

超音波検査で分かることは……?



産婦人科副部長
豊福 彩 (とよふく あや)

妊娠初期には胎児が一人か双子か、胎盤

などの様子、予定日の決定などに用います。妊娠中期・後期には羊水量の測定や胎児発育の精査などを行い、胎児の元気を判断するツールとしても使用します。

妊婦健診で度々行われる超音波検査も、広い意味で出生検査の一つです。最近、専門的な超音波検査が注目を集めています。なぜでしょう?

す。NTの増加は、染色体異常や心臓の形態異常などの関連が深いことが分かっています。正確に計測するには、およそ妊娠11週から13週に測定する必要があり、通常の診察時間内に簡単に計測できません。妊婦健診で測定できないので、希望される場合や妊婦健診で専門的検査を勧められた場合は、主治医と相談し、検査のできる医療機関で行います。

それは、妊娠中から胎児の状況を正確に判断することが、生後早期に治療の必要な病気の発見につながり、妊娠や胎児の発育をより適切にサポートすることです。出生後も速やかに検査・治療への橋渡しができるからです。

専門的超音波検査では、後頸部浮腫(N T)の測定がありま

す。当センターでは、検査の前後に妊婦さん本人だけでなく、ご家族にも「検査を受けて分かること」について、十分な説明を行うようになっています。また、

出生後早期治療が必要な場合は、出生前から小児科や小児外科とも連携しています。

出生前検査に関するカウンセリング外来を持つ施設も増えてきています。気軽に受診していただき、正しい知識を得る機会にしたい

が原因となるものは約25%と、多くの場合は遺伝的な要因に環境などの他の要因も関連しています。医学の進歩とともに、少子化と言われ続けて久しく、子どもを授かり誕生を迎えることがより貴重な機会と捉えられていることも背景にあります。

しかしながら、専門的な超音波検査で判明するのは、生後に治療が必要な病気の6割程度と言われています。また、全ての妊娠のうち、治療が必要な先天異常を持つ赤ちゃんの割合は約3%、そのうち染色体

なことを思われま